

序文 一年報第13号の発刊にあたって

坂 上 学 (法政大学)

編集作業が遅れ、本来であればとうに発刊されていなければならない『年報 経営ディスクロージャー研究』(以下、『年報』)第13号ですが、難産の末、ようやく発刊することができました。第13号より編集長が交代し、編集体制が刷新されたほか、査読プロセスの厳密化といった改革がなされました。また紙面のレイアウトが兄弟誌である『現代ディスクロージャー研究』と同じになり、そしてなによりも、新しいデザインの表紙に切り替わりましたことを、ご報告申し上げます。

『年報』は次号、第14号より編集規程の大幅な改訂がなされます。もっとも大きな変更は研究大会で報告された原稿については「論稿」というカテゴリー1つに絞り、原則として査読なしですべて掲載するという方針へと転換します。また、査読は希望者のみに限定することになりました。年報としての性格をより強化していこうというのが、その大きな理由です。

第13号では査読の厳格化を掲げて編集作業を進めてまいりましたが、それにより発行時期が遅れ、不採録となった論文の掲載機会が失われてしまう、などのデメリットが浮き彫りとなりました。『年報』なのだから、どのような研究報告がなされたのかが分かるような内容であってほしい、年度が終わってすぐにお届けできるように発行スケジュールの正常化がなされるべきだ、という判断のもと編集規程を変更することになりました。

本号は、巻頭の「特別寄稿」1篇、「論文」2篇、「プロシーディングス」3篇の計6篇の論稿が掲載されています。「論文」および「プロシーディングス」には、第13号の対象期間である第7回大会と第8回大会において報告された論稿が掲載されています。巻頭の「特別寄稿」は、第10回大会における会長講演の論稿で、本来であれば次号に掲載予定でしたが、いち早く会員の皆様にお届けすべきとの判断で、第13号に掲載することになりました。執筆者の黒川行治会長(当時、現名誉会長)には、いろいろとご無理をきいていただきましたことを、この場を借りまして感謝申し上げます。

このようなわけで『年報』は次号より、掲載される論稿数が大幅に増えるものと予想されます。『年報』の発行スケジュールの正常化と活性化をはかるべく、編集委員会一同で頑張っていきますので、皆様の積極的な学会報告と『年報』への投稿をお願いいたします。